

## 御意見の論点と、県の対応案について

【テーマ 1】 「生物多様性」の考え方、説明について			
第 1 回委員会で示された論点	県の対応案	議論いただきたい内容	計画への 反映箇所 ※資料 3 参照
<p>○ 生態系サービスだけにとどまらない、生物多様性の本来の大切さや、それを理解していただくための方策の記載の必要性</p>	<p>○ 生物多様性が人間の経済活動に役立っていること（狭義の生態系サービス）も事実であるが、生物多様性の大切さはそのような狭い概念にとどまらないこと（人類社会の長期的存続など）を記載する。 【検討の熟度※：低】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※「検討の熟度」の目安            低：イメージはあるが具体案がない            中：ある程度具体案はあるが精緻な検討に至っていない            高：素案に乗せられるレベルの具体案がある</p> </div>	<p>○ 難解な「生物多様性本来の大切さ」を図や文章でうまく説明できている例について （他の自治体、企業、民間団体の計画等）</p>	<p><b>①</b>  （現行の計画書 P1, 2）</p>
<p>○ 生物多様性の本来の大切さを理解していただくためには、県民の方々に実感していただく仕掛けが重要であること</p>	<p>○ コラムとして、生物多様性大切さを感じられるような場所（例えば小網代の森）の説明を、6つのエリア別に紹介する。【検討の熟度：高】</p> <p>○ コラムとして、県内で行われている生物多様性視点での環境イベント（棚田観察会など）の例を紹介する。【検討の熟度：中】</p> <p>○ コラムとして、生物の大切さを様々な側面から学ぶ手法（水族館、企業の環境報告書、大学の公開講座など）を紹介する。【検討の熟度：中】</p> <p>○ コラムとして、経済的な生態系サービス以外に生物多様性を身近に自然を体感できる実例を挙げ、読み手に普段の生活の中で生物多様性を意識していただけるよう工夫する。【検討の熟度：低】</p>	<p>○ 自然愛好者以外の層にも興味を持っていただけるような工夫の方法について</p> <p>○ コロナ禍における生物多様性イベントの成功例などについて</p>	<p><b>②</b>  （現行の計画書 P1, 2）</p>

## 【テーマ 1】 つづき 「生物多様性」の考え方、説明について

第 1 回委員会で示された論点	県の対応案	議論いただきたい内容	計画への 反映箇所
○ 県民や企業の理解を得るには生物多様性の考え方における生態系サービスの位置づけの話も必要であること。生物多様性そのものの説明と生態系サービスを用いた説明の両方が必要であること。	<p>○ 現行の計画書でも生態系サービスについて説明はしているが、表が 1 つあるのみで、説明文も少ないため、身近な具体例やイラストを示して充実化し、分かり易くする。【検討の熟度：中】</p> <p>○ 生態系サービスの説明をすると「生物の形状→工業デザインへの貢献」「遺伝情報→医療への貢献」といった即物的な説明になりやすいため、「人間が経済的に享受する生態系サービスは生物多様性の果実の一部に過ぎない」という構図を図式化して示す。【検討の熟度：低】</p>	○ 複雑系の中で間接的に享受していることが多い生態系サービスを読み手に易しく伝える方法について、あるいはうまく図式化できている例について	<p><b>②</b></p> <p>(現行の計画書 P1, 2)</p>

## 【テーマ 2】 計画の進捗を測る指標と目標設定について

第 1 回委員会で示された論点	県の対応案	議論いただきたい内容	計画への 反映箇所
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 間接的に生物多様性に役立つ取組だけでなく直接的に生物多様性保全に役立つ取組を特に重視して打ち出す必要性について</li> <li>○ 具体的に数値目標を示して理解しやすくする必要性について。</li> <li>○ 直接的な数値としては希少種等がイメージし易いが、目標設定や調査が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 直接的に役立つ取組を打ち出すことはできるが、それが生物多様性として俯瞰した場合にどの程度保全度を増しているかを示せない点が問題と考えられる。 例：植生保護柵の設置面積が示せるが、それが生物多様性をどのように増すのかについて示せていない</li> <li>○ しかしそれを解明することは難解なので、p.11～13 のエリア別、あるいはもっと小さな「系」について示すことを検討する。【検討の熟度・中】 例 1：植生保護柵の設置により植生がどの程度再生し、生息生物がどの程度復活する、といった範囲までの系統的な考え方を示し、波及効果や数値目標については明示できる範囲で示す。 例 2：どういった点が解明できていないか、未知であるかについて率直に記載する。</li> <li>○ また、公園や地域制緑地以外のみどり等、法規制がからず行政のコントロールが及びにくい部分について評価する視点が欠けており、それらを反映するプロセスが必要である。【検討の熟度・高】 例 1：樹林率、緑地率やその推移について記載し、市町村ごとのカラーグラデーションで示す。 例 2：国土地理院の衛星写真を用いて経年的な緑地形態変化を掲載する【検討の熟度・高】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ どのような「系」で捉えれば現実的に評価が可能か、逆にどの程度の広がりを持った「系」でなければ意味がないか、といったレベル感について 例：植生保護柵→林床植生復活→植生に依存する生物復活（昆虫等）、→それらを捕食する高次消費者の復活、とまで広げすぎるのは現実的でないが、「植生保護柵→植生復活」程度で留めるのは単眼的に過ぎる、など</li> <li>○ 法規制がかかっていないエリアでの生物多様性がどうあるべきかについて 例：民有のみどりが減ることは避けられないので、「人口増や経済規模に比してどれだけ減少を食い止められたか」という視点を持つ、など</li> </ul>	<p><b>③</b></p> <p>（現行の計画書 P5, 7）</p>

## 【テーマ 2】 つづき 計画の進捗を測る指標と目標設定について

第 1 回委員会で示された論点	県の対応案	議論いただきたい内容	計画への 反映箇所
<p>○ 丹沢エリアのように他のエリアも、目標設定から<u>官民協働</u>で自然再生計画等に取り組んでうまく機能させる取り組みができないかについて</p> <p>○ <u>ターゲット</u>をはっきりさせて目標設定すべきことについて</p>	<p>○ 他のエリアにおいては、<u>県民参加型</u>の「かながわ生きもの調査」の結果を活用して、外来種発見マップ（仮称）を作成して、随時ホームページで公開する。目標値は発見数とする。【検討の熟度：低】</p> <p>○ 環境科学センターにおいて研究中の「環境 DNA 調査」の手法を活用できる可能性がある。</p> <p>例：イメージとしては県（自環課）が<u>県民や企業に調査キットを配付</u>して、調査地の水を採取してもらい、科学センターにて分析をする。分析結果によって、その水系にどのような水生生物がいるか分かり、指標種によって生態系の健全度合が判定できる。【検討の熟度：中】</p> <p>○ 学校に各校のビオトープ等のモニタリング調査に協力してもらう。</p> <p>例：横浜市内の小学校ではビオトープを設置校が多く、そこの生物情報を定期的に報告してもらうことで、トンボなどの指標種により、学校周辺の生態系情報をモニタリングできる可能性がある。【検討の熟度：低】</p>	<p>○ 「地域の特性に応じた生物多様性の保全」を測る指標として、環境 DNA では、やや水系に偏っていることについて。</p> <p>○ 特に陸域の生物多様性の保全状況を測る指標になり得る調査手法について</p> <p>○ いずれも定性的な評価であり、県土全体、あるいは各エリアにおける定量的な評価を行なえないと目標設定が難しい点について</p>	<p><b>③</b></p> <p>（現行の計画書 P5, 7）</p>
<p>○ 6つのエリアを県として最終的にどのような状態にしたいか分かりにくいことについて</p>	<p>○ 最終的にどのような状態にしたいかイメージがしにくいので、エリアごとの冒頭で目標とする状態（生物多様性が保全されている状態）を示す。【検討の熟度：高】</p>		<p><b>④</b></p> <p>（現行の計画書 P18~25）</p>

## 【テーマ 2】 つづき 計画の進捗を測る指標と目標設定について

第 1 回委員会で示された論点	県の対応案	議論いただきたい内容	計画への 反映箇所
○ 都市、近郊とそれ以外では生物多様性の問題が異なり、取組みの優先順位や目標も異なることについて	県として対応ができておりません。		
第 1 回委員会で示されていないが 課題と考える事項	県の対応案	議論いただきたい内容	計画への 反映箇所
<p>○ 「生物多様性という言葉を知っている」の先に何を求めているのかが明確でないこと</p> <p>※ 当該部会ではなく、自然環境保全審議会で出た御意見</p>	<p>○ 県の目標の 1 つ目は「地域の特性に応じた生物多様性の保全」。保全度が増進される、あるいは劣化の度合いが緩和されることを目標として明確に示し、「アウトカムとして生物多様性はどの程度保全されたのか」をできるだけ客観的な指標で見える化する。【検討の熟度：中】</p> <p>○ 県の目標の 2 つ目は「県民の生物多様性の理解と保全行動の促進」。進捗を測る指標として、県民ニーズ調査による「生物多様性保全の行動アンケート」結果を活用する。どれだけ多くの人が生物多様性を意識して行動できているか、地域別、年代別、性別で分析をして、毎年の計画実施報告の中で考察し、庁内会議で各事業所管課とも情報共有して翌年度以降の活動に活かせるようにする。 【検討の熟度：中】</p>	<p>○ 令和 3 年度から試験的に、県民ニーズ調査のアンケート項目を変えたが、行動の選択肢として別添のとおりで良いか、不足や不備がないかについて</p> <p>○ 環境 DNA の分析結果をどのように用いれば指標として有効なものになるかについて</p>	<p><b>⑤</b></p> <p>(現行の 計画書 P5, 7)</p>

## 【テーマ 3】 生物多様性情報ネットワークの構築について

第 1 回委員会で示された論点	県の対応案	議論いただきたい内容	計画への 反映箇所
<p>○ 県が複数の試験研究機関で取り組んでいる科学的知見の蓄積について、情報を整理して公開するようなシステムが無いこと。</p> <p>○ 県内には上記のほか、研究者も多く、県民活動も活発である一方、連携ができていないこと。</p> <p>○ 生物生息情報を収集し統率して保全施策を考えるセクションが必要であること。</p> <p>○ 市町村との連携について、現状年に 1 回連絡会議を実施されているが、随時連絡が取れるシステムや、市町村をまたがるような案件に係る県の支援体制が求められているのではないかとということ。</p>	<p>○関係課や市町村と漠然と「生物多様性の保全」をテーマに集まって議論しても、課題を解決する議論にはならないため、直面しているテーマについて関係のある所属でユニット的に情報共有する仕組みを多数作る。</p> <p>例：レッドデータブックにおける自然環境保全課と生命の星・地球博物館等の博物館との連携ユニットを作る</p> <p>水辺環境における生物多様性保全検討ユニットを自然環境保全課と河川課と水産課で作る</p> <p>ナガエツルノゲイトウなどの外来性植物対策ユニットを農業振興課と農業技術センターと土木事務所で作る 等</p> <p>【検討の熟度：高】</p> <p>課題：生物多様性情報ネットワークの構築誰がやるのかというシステムの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性情報ネットワーク：人的リソースの問題から現実的でない</li> <li>・誰がやるのかというシステム：上記の検討ユニットの量産により、連携が多くなり風通しが良くなることを目指す。</li> </ul> <p>【検討の熟度：中】</p>	<p>・研究機関や研修者とどのような方法で情報を共有するか。手間やコストをかけずにできる方法があるかについて。</p>	<p><b>⑥</b></p> <p>(現行の計画書 P6, 36)</p>

## 【テーマ 4】 その他について

第 1 回委員会の御意見	県の対応案	議論いただきたい内容	計画への 反映箇所
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ SDGs が世間に浸透してきている今、SDGs の目標から新たに取組みを検討することも戦略的に良いと思う。</li> <li>○ SDGs の 17 の目標は同列に羅列する話ではなく、ウェディングケーキモデルで考えるべきである。生物多様性に関わる目標は、他の多くの目標の基盤となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本はウェディングケーキモデルをコラムで示す</li> <li>○ 海、陸の豊かさを守ろうの中で、身近な具体例など書けることがあれば記載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まずは左記のようなスタンスで今改定を行い、その後の知見を踏まえて次々改定に活かしたいと考えているがそうした考えでよいかについて</li> </ul>	<b>7</b>  (現行の計画書 P3)

第 1 回委員会で示されていないが 課題と考える事項	県の対応案	議論いただきたい内容	計画への 反映箇所
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生物多様性基本法が策定されて以降、各自治体は努力義務として、各々生物多様性地域戦略の策定に取り組んでいる。</li> <li>○ 県内の市町村でも、生物多様性計画を策定した市があるが、まだまだ少ない。</li> <li>○ 市町村によって、生物多様性保全に対する熱量が違う。予算があまり無かったり、そもそも担当課がないところもある。</li> <li>○ 市からは市ごとに生物多様性計画を策定することの過重さや、意義についての疑問が呈されることがあり、県としては市が策定に前向きにとらえるよう工夫をしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県内市町村における生物多様性計画策定状況をマップで示す。</li> <li>○ 各エリア別取組においては、計画策定済み市の部分については市計画を尊重する構造にする。 例：都市・近郊エリアのうち市計画策定済の相模原市や厚木市や藤沢市部分については、①各市の取組状況を紹介する、②各市の取組を踏まえたあるべき広域的な生物多様性について記載する。</li> <li>○ しかし考察が重層的で難解なので、今回は河川のみに限定して記載する。(相模原市と厚木市にまたがる相模川のあり方、相模原市と藤沢市にまたがる境川の生物多様性等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まずは左記のようなスタンスで今改定を行い、その後の知見を踏まえて次々改定に活かしたいと考えているがそうした考えでよいかについて</li> </ul>	